

あなたと市議会

9月 定例会
No. 60 6月
令和元年10月15日号
12月 3月



十文字中学校
体験入学

～さらにかがやく未来へ～

子育てしやすいまちの実現に向けて

9月定例議会は、8月26日から9月20日までの日程で開催されました。市民生活に密着するさまざまな議案審査の中から、特に注目する内容について取り上げます。

(奥山 豊和)



会議資料と審議結果はこちらからご覧いただけます。

出産祝金支給条例の改正 支給要件を一部見直し

背景

先の6月定例議会において議員の一般質問において、「出産祝金支給条例に関して、支給要件の見直しをすべき」との意見と、「出生届を受理した段階で祝金を手渡しした方がお祝いの気持ちが伝わるのではないか」という指摘がありました。

これまで、現金ではなく横手市共通商品券により支給していることから、「窓口での直接支給となると金券の管理に課題が残るが、要件の見直しについては検討する」旨の答弁がありました。

改正の内容

「生まれた子どもを祝福する」ことを目的として、一部要件が緩和されます。

●子が出生により横手市に住民登録されたとき

●申請者は子の父または母

●子が1歳に達する日まで申請

議会の指摘

全会一致により条例改正案は可決されました。

9月20日以降に生まれた子どもを対象としていることには、制度改正前後の不公平感が無いように、さかのぼって申請できるようにするべきだとの指摘がありました。



幼保の無償化 給食材料費は全額無料へ

背景

消費税率10%への引き上げに伴い実施される「幼保無償化」。国の方針では、給食材料費など実費徴収している費用は、無償化の対象外となります。

議会の動き

●本年度6月定例議会
市保育所経営者協議会・保育協議会からの請願は、

●全家庭の給食材料費の無償化
無償化が難しい場合は、給食材料費の設定と徴収を市が行う

ことを求める内容でした。市の見解は「県の制度を見極め検討する」とのこと、不確定な要素も多く、請願は継続審査となりました。

今後どうなる?

今議会冒頭、方針が示されました。補正予算の成立により、県の助成制度に市が上乗せすることで、給食材料費(副食費)は全額無料となります。

営業停止中の横手公園 スキー場、予備調査へ

背景

平成29年7月の大雨により被災し、営業停止となっている横手公園スキー場。子育て世帯やスキー愛好者を中心に、再開を望む声が多数寄せられていました。小学校のスキー授業が天下森スキー場に集中していること、混雑緩和や施設整備の対策も必要となっています。

議会の動き

●本年度3月定例議会
横手市スキー協会より、同スキー場の早期再開と存続を求める陳情書が提出されました。

●本年度6月定例議会
横手シニアスキークラブからも存続を求める陳情書が提出されました。



「廃止」の方針が示され
営業停止中の横手公園スキー場

市が横手市財産経営推進計画(FM計画)により進めている「施設の集約」の方向性と同一に議論すべきではないとして、陳情を採択しました。

今後どうなる?

「再開」が決定した訳ではありませんが、今後、予備調査を行うための補正予算が成立しました。

議案pick up

人権擁護委員を推薦

- 戸田富紀子氏 (横手新)
- 鈴木るみ子氏 (横手新)
- 越後谷綾子氏 (横手新)
- 鈴木長悦氏 (大雄新)
- 七尾喜美代氏 (横手再)
- 高橋純一氏 (十文字再)
- 狩野和枝氏 (雄物川再)

一般会計補正予算

健康増進法の改正に伴い、特定屋外喫煙場所を設置することになりました。順次、条里南・増田・平鹿・十文字・山内・大雄の各庁舎と消防署南分署、かまくら館に整備されます。

任期を残し、議長が途中交代

9月定例議会最終日、齋藤光司議長から議長辞職願が提出されました。7月の公務出張中、新幹線の車内で「酒に酔って大声で騒いだ」ことなどを指摘する一市民からの投書によるものです。齋藤議員は記載内容を一部否定していますが、このことにより、市民のみならず、の信頼を損ね混乱を招いたことに、改めて市議会として深くお詫び申し上げます。

ただちに議長選挙が行われ、播磨博一議員23票、鈴木勝雄議員2票(定数26、欠員1)により、播磨議員が新議長に選出されました。なお、議会改革の取り組みとして、初めて議長選挙の立候補表明を議場にて行いました。

賛否が分かれた議案と審議結果

・この他の議案は全員賛成により可決されました。
○：賛成 ●：反対 退：退席
※播磨博一議長は採決に加わりません。

案件名	会派・議員名	審議結果	
		採択	採択
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	新風の会	賛成	18
		反対	4
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	青山 豊	○	○
	加藤 勝義	○	○
	奥山 豊和	○	○
	佐藤 誠洋	○	○
	高橋 聖悟	○	○
	木村 清貴	○	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	山形 健二	●	○
	大日向香輝	○	○
	菅原亀代嗣	●	○
	菅原 正志	○	○
	齋藤 光司	退	退
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	菅原 恵悦	○	○
	寿松木 孝	○	○
	播磨 博一	-	-
	塩田 勉	●	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	佐々木喜一	○	○
	遠藤 忠裕	●	○
	小野 正伸	○	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	佐藤 清春	○	○
	佐藤 忠久	○	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	鈴木 勝雄	○	○
	立身万千子	○	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	土田百合子	退	退
	高橋 和樹	○	○
市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情	本間 利博	○	○
	本間 利博	○	○

陳情の審査結果

陳情3件が審査され、次のような結果になりました。

- 採 択
 - けん引式車いす補助装置「JINRIKI」に関する陳情書(児玉 量子氏 他6名)
 - 新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について
(秋田県山村・過疎地域振興協議会 会長 佐々木 哲男氏)
 - 市議会として、秋田市新屋への地上イージズ配備反対の意見表明を求める陳情(ミサイル基地イージズ・アショアを考える秋田県民の会 代表委員代表 川野辺 英昭氏 他1名)

健康・福祉・環境

8050問題の解決に向けて

雄物川地域局では、8050問題の解決に向けた調査を行ったとのことだが、その結果についてはどうだったか。

答弁 担当職員と保健師が66世帯を訪問した。その結果、生活保護などの行政支援に結びつけられた例が3件あった。高齢の親と子の2人世帯については、これまで見守りの対象となっていなかったが、こういった世帯の状況把握も必要と感じた。



80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題。こうした親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが目立ち始めています。

雪下ろし雪寄せ支援の充実を

降雪時期が予測できなくなっている。雪下ろし雪寄せ支援の実施期間を延長することはできないか。

答弁 契約している事業者が確実に対応できる期間ということで契約しており、事業者の他の業務との兼ね合いから実施期間の延長は難しい。想定範囲内の回数であれば、事業者で臨機応変に雪下ろしなどの対応をいただいているようだ。



高齢者のみの世帯や、配偶者のいない女子と児童のみの世帯などに、雪下ろしや雪寄せの支援を行っています。

介護保険料値上げの見込みは

介護系の施設が増えてきていることに伴い、介護保険料の値上げに結びつかないか懸念している。現状についてどうなっているのか。

答弁 介護保険事業は3年ごとに計画を策定し、その際は人口・介護保険認定者数・介護サービス事業者の動向・ニーズ調査などを行ったうえで介護保険料を確定する。情報収集しながら次の計画に向けた取り組みを行っており、保険料が突大幅に上がることはない。



介護保険利用の手引き(あんしん介護保険)は市のホームページでもご覧いただけます。(ページ番号000001301)

野焼き禁止の周知徹底を

野焼きの通報が減らないのは、罰則があると認知がされていないからだと思われる。罰則を強調して周知することが必要ではないか。

答弁 野焼きは原則禁止されているが、枝や草の焼却など周辺地域の生活環境に与える影響が軽微であるものは例外とされている。ただし、軽微なものも基準が明確でなく、罰則を強調した周知は難しい。



野焼きは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で禁止されています。(一部の例外を除く)



9月定例議会は「決算議会」と言われています。議長、議会選出監査委員を除く全議員で構成する決算特別委員会を設置し、委員長に寿松木孝委員、副委員長に木村清貴委員を選任。前年度の一般会計及び特別会計、企業会計12件を審査し、全て全会一致にて認定しました。

ここからは、平成30年度一般会計決算について、決算特別委員会における総括質疑、厚生・産業建設・総務文教の各分科会における質疑をピックアップしてお伝えします。

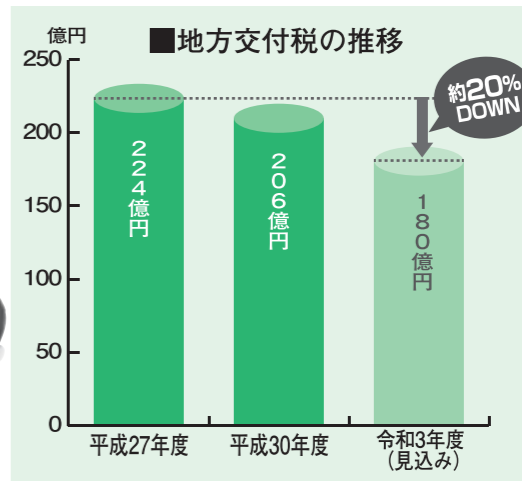


今後の財政



地方交付税は毎年何億円も減り、生産年齢人口も減少している…今後の横手市の財政はどうなっていくの？

*合併算定替特例が終了するため、令和3年度の地方交付税は、平成30年度よりさらに26億円ほど減る見込みです。今後は、成長が見込まれる分野には積極的に予算を投入しつつ、創意と工夫により財政運営をしていきます。



平成30年度一般会計決算額 523億6100万6541円

現市政初、全会一致認定

総括質疑

企業誘致について



立ち見まみ子 委員

問 企業誘致室が今年度から、企業誘致課になった。誘致企業、特に「優良企業」の定義は何か？

答 「健全な財務状況」や「将来性」「労働条件・福利厚生」などが優良企業の条件である。

市は、企業の状況をどの程度把握しているか？

答 労働者の状況について、平成30年度市就業環境調査で回答のあった市内321社からの報告によると、正社員が76.5%。その他は非正規。外国人労働者は100人を超過している。労働契約等については把握していない。また、ハローワーク等国の機関とは月2回程度情報交換を行い、情報の収集に努めている。

産業政策のブランドデザインについて



おひま 豊和 委員

問 生産年齢人口の減少と、新しい時代の流れを見据えた今後の事業展開について伺う。

答 商工業に関する各種事業の見直しを進め、人口減少時代に即した施策の方向性を再検討する。自動車関連企業の集積地である強みを生かし、新たな企業誘致、事業拡大や設備投資への支援を進め、市内企業の多様性を確保していく。

2030年には、生産年齢人口と高齢人口が同じ割合になることが予測されている。すでに人材の奪い合いが起こっている現状をどう認識しているのか。

答 Aターナー者への仕事のあっせんや、企業が事業継続できるような労働力の確保を支援していく。

7月臨時議会の概要

7月16日に開かれた臨時議会では、以下の工事請負契約の締結について議決しました。

- 雄物川庁舎建設工事 建築本体：2億4570万円
- 十文字地域多目的総合施設建設工事 建築本体：5億868万円、電気設備：1億4904万円

総務・財政・教育・生涯学習・消防

地域の文化に触れる機会を

「横手を学ぶ郷土学」は、子どもたちが地域の歴史や文化を知るための大事な機会となっている。年数を区切った事業では、その機会が途切れることも考えられるがどうか。

答弁 全児童生徒と教員が「よこてだいき」というテキストを持っている。それを活用して地域の歴史や文化について学び、実際に祭りや行事に参加することで、地域とのつながりが密接になった事例もある。



全ての小学生・中学生が郷土への誇りを持ち、次の世代に伝える心を学び、地域のさらなる発展を目指す事業です。

増田まんが美術館の補修は

増田まんが美術館周囲の犬走り[※]コンクリートにひび割れがある。この部分は、昨年度までに行った工事の内容に含まれていたか。

答弁 他に優先して直すべきところがあったため、昨年度までに行った工事の内容には含まれていなかった。観光客などたくさんの方をお迎えする施設として、このままにしておくのは好ましくないため、再度施工業者と確認し、補修を進めるか検討していく。



まんが原画所蔵枚数日本一を誇る美術館。令和元年5月の開館以降、10万人以上の方にお越しいただきました。

交通指導隊の定数見直しを

定数は108名以内となっているが、指導隊員数は現在84名となっており、定数の見直しが必要ではないか。また、隊長、副隊長は負担が多いので、今後の担い手確保の意味からも役職手当の支給を検討してはどうか。

答弁 定数は見直しする必要があると考えているが、現在の隊員数は活動する上での最低限の数であり、各地区の隊長とも協議している。役職手当の件もあわせて検討したい。



登下校時の誘導による交通事故の防止や、交通安全運動の推進などの活動を行っています。

災害見舞金の見直しを

当市でも近年、床上浸水し大きな損害が発生するケースが増えている。そのような災害に対して現在の災害見舞金ではあまりにも少ない。災害見舞金を見直す考えはあるか。

答弁 最近の気象状況を見ると、以前では想定外だった災害も、日本中で当たり前のようになっている。災害見舞金の見直しについて、いただいた意見を参考に、実際どこまでできるか検討したい。



災害により被害を受けた場合、り災者に対し災害見舞金が支給されます。

農商工業・観光・土木・建築・上下水道

グリーンツーリズムの拡大を

現状と課題についてどうなっているか。

答弁 横手市ではグリーンツーリズム推進協議会として活動を行っているが、活動を行っている地域に偏りがあり、大森地域と増田地域が中心となって取り組んでいる。今後は、受け入れ体制の構築などについて、予算を有効に活用しながら市全域で取り組みを進めていきたい。



各地域の特色ある自然や文化と、環境や農産物などを生かして、体験型修学旅行などの受け入れを行っています。

就農支援事業のターゲットは

就農支援事業における新規就農者のターゲットをどのように考えているか。

答弁 各地域の担い手として、偏りのない人材発掘をしなければならないが、非農家出身者では土地や機械の確保等、クリアしなければいけない課題も大きい。JAと連携しながら情報提供するなど、あらゆる手を尽くして新規就農者を増やしたいと考えている。



新規就農者を育成するための農業技術研修の奨励や、資金交付など、就農に関する支援を行っています。

生活インフラ整備事業の継続を

生活インフラ整備加速化事業は、市民からも喜ばれており、継続すべきと考えるが、市としてどう評価しているか。

答弁 優先緊急課題として、平成29年度から3カ年で新設された事業である。今年度で終期を迎えるが、いまだに要望箇所が多数寄せられており、今後もこの要望に応えられるよう、何らかの形で継続できるように協議していきたい。



身近な生活道路の補修や消融雪施設の更新など、暮らしに密着した生活インフラの老朽化を解消します。

助成後の追跡調査は

空き店舗利活用支援事業について、助成後の追跡調査を行っているか。また、事業の分析と今後の展開についてはどうなっているか。

答弁 補助要項では追跡調査の取り決めや、何年以上営業しなければならないという要件はないが、不定期で現地確認をしている。にぎわい創出のためにはある程度のエリア設定が必要との意見もあり、どこでどのような施策を行うかなど集中した取り組みを検討する。



空き店舗を活用した事業の初期経費や、中小事業者等の店舗イメージアップのための経費の一部を補助します。



本間 利博 議員



Q スポーツによるまちづくりの方向性は

A 国の政策に合わせて目標を策定する

問 現在のスポーツ推進計画は各部署との連携が難しい。スポーツによるまちづくりの目標をより明確にすることで、具体的な施策が見えてくると考える。次期計画の見直しについて伺う。

答 大会等に向けて、インドネシア共和国との交流について伺う。

答 バドミントン競技を市民に広げ、人的な交流を継続しながら、今後観光交流や経済交流を発展させていきたい。

問 投票率向上への取り組みを

答 投票率見直しが一概に投票率に影響したものではないと考えるが、開設時期を限定した期日前投票所の設置などの方策を検討する。

問 交通弱者の投票機会確保の対策が必要と考えるが、投票区見直し結果と今後の対応について伺う。

答 投票区見直しが一概に投票率に影響したものではないと考えるが、開設時期を限定した期日前投票所の設置などの方策を検討する。

問 冬期間を含めた運動習慣の定着は重要な課題だ。各地域が持つ公園やスキー場跡地等を活用し、市民が運動できる新たな施策が必要と思うが取り組みについて伺う。

答 市内の屋内施設の活用を促進し利用者の利便性を図っているが、弱い部分でもあるので新たな取り組みが可能か検討を進める。

問 2020年オリンピック競技

答 実現には大規模な改修が想定される。JRとの協議や他自治体の事例研究、費用対効果などさまざまな調査を行い検討する。

問 横手駅東西自由通路の自転車乗り入れを可能にして欲しいとの要望が途切れない。乗り入れの可能性を探っていくべきではないか。

答 実現には大規模な改修が想定される。JRとの協議や他自治体の事例研究、費用対効果などさまざまな調査を行い検討する。

問 職員人事評価実施規程について

答 面談は年に複数回行っており、目標管理や達成度の共有、自己分析をしながら話し合っている。

問 評価に対する苦情相談申し出の実態について伺う。

答 申し出を受けたことはない。

問 360度(多面)評価システム

答 民間企業をはじめ、一部自治体でも導入の動きがあることを承知している。動向を注視していく。

問 Aさまざまな調査を行い、検討する

答 民間企業をはじめ、一部自治体でも導入の動きがあることを承知している。動向を注視していく。

問 横手駅東西自由通路の自転車乗り入れを可能にして欲しいとの要望が途切れない。乗り入れの可能性を探っていくべきではないか。

答 実現には大規模な改修が想定される。JRとの協議や他自治体の事例研究、費用対効果などさまざまな調査を行い検討する。

問 職員人事評価実施規程について

答 面談は年に複数回行っており、目標管理や達成度の共有、自己分析をしながら話し合っている。

問 評価に対する苦情相談申し出の実態について伺う。

答 申し出を受けたことはない。

問 360度(多面)評価システム

答 民間企業をはじめ、一部自治体でも導入の動きがあることを承知している。動向を注視していく。

問 Aさまざまな調査を行い、検討する

答 民間企業をはじめ、一部自治体でも導入の動きがあることを承知している。動向を注視していく。



目指せ運動習慣の定着



自転車乗り入れの要望が多い横手駅東西自由通路

問 来年度の職務経験者の行政職受験資格について、県外在住者としたのはなぜか。

答 地元企業から「優秀な人材に退職されて大きな痛手だ」と指摘を受けた。優秀な人材を県外在住者から発掘し、地元企業と共に地域の発展を目指す。また、県外在住者を一人でも横手に転入して欲しいとの思いから受験資格を見直した。

問 その他の質問

答 人事評価のS評価とA評価の違いについて

問 今年から全日本戦として7月下旬に開催された横手ラリーだが、このイベントに対する評価について伺う。

答 横手ラリーは、スタートや車両整備などを行うサービスパークを秋田ふるさと村に設け、山内地区を中心にコースが設定され、7月26日から28日まで開催された。開催期間中、サービスパークには約3800人、コース内の観戦場所には350人の観客が訪れ、選手及び関係者の850人が宿泊するなど、大きな経済効果があった。

問 初の開催でもあり、さまざまな場面で課題があったように感じているが、その改善策などを含め、今後の対応について伺う。

答 観戦場所の選定やチケットの販売方法、サービスパークでの施設面など、多くの課題や改善点も今回の開催で明らかになった。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 この素晴らしいコースを維持するため、補修を主催者任せにせず、市で十分な補修を施す事で継続開催につながると思うがどうか。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 主催者側との取り決めに従って補修の状況を見定めているところであり、必要であれば対応していくことも視野に協議している。

問 現在のスポーツ推進計画は各部署との連携が難しい。スポーツによるまちづくりの目標をより明確にすることで、具体的な施策が見えてくると考える。次期計画の見直しについて伺う。

答 大会等に向けて、インドネシア共和国との交流について伺う。

問 投票率向上への取り組みを

答 投票率見直しが一概に投票率に影響したものではないと考えるが、開設時期を限定した期日前投票所の設置などの方策を検討する。

問 交通弱者の投票機会確保の対策が必要と考えるが、投票区見直し結果と今後の対応について伺う。

答 投票区見直しが一概に投票率に影響したものではないと考えるが、開設時期を限定した期日前投票所の設置などの方策を検討する。

問 冬期間を含めた運動習慣の定着は重要な課題だ。各地域が持つ公園やスキー場跡地等を活用し、市民が運動できる新たな施策が必要と思うが取り組みについて伺う。

答 市内の屋内施設の活用を促進し利用者の利便性を図っているが、弱い部分でもあるので新たな取り組みが可能か検討を進める。

問 2020年オリンピック競技

答 実現には大規模な改修が想定される。JRとの協議や他自治体の事例研究、費用対効果などさまざまな調査を行い検討する。



青山 豊 議員



山形 健二 議員



Q 30年度の移住者実績は

A 6世帯9名の方が移住した

問 移住者実績が少なく感じる。何をもちて移住者として数えるのか。データの取り方も重要だと考える。この実績についてどのような考えを持っているのか。

答 移住者の実績は「NPO法人秋田移住定住総合支援センター」への移住登録を利用して、当市に移住された方の数値となっている。しかし、「移住」自体の統一的な定義がなく、捉え方によって数値が変わってくるものと考えている。当市としては、当該センターの数値を、引き続き「移住者数の実績」として捉えていきたい。

問 転入アンケートの実施を

答 県外からの移住や、Uターン等の移住実績を正確に把握し、移住後のフォローや、今後の移住定住促進事業につなげていくためにも、転入時に窓口でアンケート調査をするべきだと考えるがどうか。

問 空き家を活用した取り組みを

答 他の自治体では、市が空き家を借り上げ、リフォームをして移住者に貸し出すという取り組みを行っている。当市でもできないか。

問 民間事業者が販売や賃貸をされている住宅があることから、市で直接行うことは考えていない。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 この素晴らしいコースを維持するため、補修を主催者任せにせず、市で十分な補修を施す事で継続開催につながると思うがどうか。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 主催者側との取り決めに従って補修の状況を見定めているところであり、必要であれば対応していくことも視野に協議している。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 主催者側との取り決めに従って補修の状況を見定めているところであり、必要であれば対応していくことも視野に協議している。



様々な移住支援が受けられる「NPO法人秋田移住定住総合支援センター」

問 今年から全日本戦として7月下旬に開催された横手ラリーだが、このイベントに対する評価について伺う。

答 横手ラリーは、スタートや車両整備などを行うサービスパークを秋田ふるさと村に設け、山内地区を中心にコースが設定され、7月26日から28日まで開催された。開催期間中、サービスパークには約3800人、コース内の観戦場所には350人の観客が訪れ、選手及び関係者の850人が宿泊するなど、大きな経済効果があった。

問 初の開催でもあり、さまざまな場面で課題があったように感じているが、その改善策などを含め、今後の対応について伺う。

答 観戦場所の選定やチケットの販売方法、サービスパークでの施設面など、多くの課題や改善点も今回の開催で明らかになった。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 この素晴らしいコースを維持するため、補修を主催者任せにせず、市で十分な補修を施す事で継続開催につながると思うがどうか。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 主催者側との取り決めに従って補修の状況を見定めているところであり、必要であれば対応していくことも視野に協議している。

問 今年度は準備期間も短く、課題も多かったという認識は共通しているが、「林道の状態が素晴らしい走り応えがあった」など、ラリー関係者の方々からは、高い評価をいただいている。

答 主催者側との取り決めに従って補修の状況を見定めているところであり、必要であれば対応していくことも視野に協議している。



寿松木 孝 議員



林道のコース状態にも高い評価横手ラリー



大日向 香輝 議員

Q 横浜市消防署西分署の立地について

A 迅速な出動に必要不可欠、理解を願いたい

問 西分署の建設予定地の近隣に、西部斎場と横手明峰中学校がある。消防車両の緊急出動時のサイレンが式事の騒音になったり、学習の妨げにはならないか。

答 どれをとっても住民生活に無くてはならない施設である。捉え方は人それぞれであるが、市としては、住民の方からありがたい施設と捉えていただけるよう努力したい。

●西部斎場移転場所の検討を

問 西部斎場の立地や老朽化を考えると移転すべきと思う。移転の候補地として、遊休施設である雄物川陸上競技場を検討できないか。

答 東部斎場や南部斎場とは異なる立地環境にある。また、西部斎場の火葬炉や建物の老朽化が進んでおり、今後の整備方針について横手市財産経営推進計画に基づき関係部局で協議を行っていく。



黒煙の立ち昇る西部斎場

●横手明峰中学校の冷房の整備は
問 横手明峰中学校の周囲の騒音を考慮すると冷房の整備を急ぐべきではないか。

答 十文字第一小学校、横手南小学校など、消防署や病院に近い学校においても、これまでサイレンの音により支障があったとは聞いていない。横手明峰中学校においても同様に騒音と捉えるものではないと考える。

●地球温暖化への対策は
問 猛暑日は年々増えていき、我慢の限界を超えている。小中学校の冷房設備を拡充させることが必要ではないか。

答 昨年度と同じ方針だ。校内で暑さから避難できる場所として、図書室や会議室などの共有スペースを中心に冷房設備を設置する。また、屋外での作業が中心となる校務員の熱中症予防策として、校務員室の冷房について今年度設計し、次年度の設置を予定している。

問 猛暑による人体への影響と対策は。
答 特に、高齢者世帯や、独居世帯への訪問による、熱中症の知識の普及・啓発や、食中毒予防強化に努める。

問 高齢化に伴う雪対策は。
答 狭い道路は除雪活動団体に活動費を補助し、雪寄せはシルバー



雪冷房の貯雪庫内「あさくら館」

人材センター等に依頼しているが、雪下ろし作業ともに担い手が不足しており受託先確保が課題である。
問 気候の変化についての対策は。
答 農業への影響は、農作物の品質低下や、病害虫の拡大のほか、自然災害による農業用施設の被害も心配される。そのため、県やJAなどと連携して強靱化対策事業等を実施し、被害抑制に努める。

■その他の質問
・雪冷房の促進と課題について
・暑さが厳しくなる時期の、地域の見守り強化について

A 図書館などの共有スペースに設置する
Q 小中学校に冷房設備が必要では



立身 万千子 議員

Q 閉校した学校の校歌の一元保存が必要
A ホームページなどで公開を検討する



加藤 勝義 議員

問 合併後に学校統合が進み、多くの小中学校が閉校している。学校はその地域の歴史であり、校歌にはそれぞれの風土や風景などの地域愛が込められている。閉校した学校の校歌の音源や譜面を一元管理し、公開できないか。

答 校歌の音源の一部は、保管している。譜面は図書館などに保管されている。有料で提供している。今後、閉校になった学校の現存する校歌を一元管理し、ホームページなどで公開できないか検討する。

●緊急時の情報発信をどうするか

問 合併前から、大森、大雄、山内、雄物川地域で利用されてきた防災行政無線が、令和4年11月でデジタル化に更新しなければ使用できなくなる。当局では更新せずに廃止するとしている。国では、防災行政無線のデジタル化を推進しており、財政措置もある。地域性



地域愛と卒業者の思い出が詰まる校歌額(金沢小学校)

も考慮し、防災行政無線の存続を再考する考えはないか。
答 デジタル化に更新するには、設置経費などの問題から、令和4年で廃止し、更新はしない。避難情報や行政情報などは引き続き防災ラジオなどにて情報を提供する。

問 防災ラジオも全戸貸与になっていない。どうやって防災情報の第一報を市民に伝えるのか。
答 よくて安全安心メールやホームページ、NHKのデータ放送など、多様なツールを使い発信する。

問 聴覚や言語に障がいのある方を対象に、スマートフォンや携帯電話などのインターネット接続機能を利用する、Net119緊急通報システムを検討してはどうか。
答 これまでにはできなかったGPSの位置情報を活用した通報者の位置の特定や、いわゆるチャット機能の活用により状況が把握しやすくなるため検討を進める。

●VR技術の観光分野での活用は
問 VR技術をかまくらや夏祭り、後三年合戦や大鳥井山遺跡など、観光に生かすことはできないか。
答 「横手を学ぶ郷土学」の総合テキスト「よこてだすき」では、QRコードを読み込むことで空撮画像を見ることができると、比較的容易に取り組める手法で活用している。今後は、情報端末を活用したシステムなどの新しい技術を探り、市内の観光資源や歴史的

資産を紹介する方法など、教育分野での活用も検討していく。
●災害時の迅速な情報収集を
問 氾濫しやすい河川にカメラを設置し災害情報を集めるなど、現場映像の活用で災害時に迅速に対応できる、スマートフォンを活用した災害時オペレーション体制を、当市でも導入できないか。
答 県では、同様のシステムを今年度の総合防災訓練で試験的に運用し、来年度の導入に向けて構築している。県の動向を踏まえ、SNSなどでの情報収集方法を探る。



緊急通報時の司令塔となる通信指令室

A 関係部局と連携し検討を進めたい
Q Net119緊急通報システムの早期導入を



土田 百合子 議員



けん引式車いす補助装置

厚生常任委員会 けん引式車いす補助装置の 購入補助に関する陳情は “採択すべきもの”に

横浜市議会ホームページ厚生常任委員会のページをご覧ください。



◆横手市市産祝金支給条例の一部を改正する条例

「今後、このような支援を行う条例の改正にあたっては、対象者の範囲を年度当初までさかのぼるなど、不満を少しでも解消するように考慮してほしい」との意見があった。

◆けん引式車いす補助装置「J-N RIKER(ジンリキ)」に関する陳情・陳情者、市当局とそれぞれ質疑を行った。

陳情者からは、「この装置は、車いすユーザーと介助者の生活の質を向上させ、移動範囲が広がることで、障がいがあっても、より豊かな体験ができるようになる。また、災害時には命を守る行動ができるようになるものでもあるので、日常生活用具給付等事業の購入補助の対象になることを望む」との説明があった。

一方、市当局からは、「陳情者の思いや趣旨は十分に理解するが、購入補助対象用具については、厚生労働省令に定める要件として、安全かつ容易に使用できるものとなっている。車いすの設計本来の使用方法ではなく、この補助器具の利用により、重心バランスの変化による転倒など

安全性に懸念が残るほか、さまざま視点から担当部署で検討し、日常生活用具給付等事業の対象要件である、日常的に使用する用具ではないと判断する」との見解があった。

問 日常生活の範囲をどう捉えるか
答 海や山に行ってみたいということとは、子どもにとっては日常生活そのものではないのか。また、転倒の危険というのは、利用者が使用上の注意をきちんと理解していれば、何ら問題のない話ではないか。

問 日常生活の範囲をどう捉えるか
答 日常生活については、どこまでが日常かという線引きをきちんとすることは難しいと思っている。

問 購入補助の対象器具としている自治体があるということは、法的に問題ないという判断があるからであると思うので、市の障がい者施策に対する姿勢の問題だ。

問 補助対象としている自治体があるということは事実であるので、絶対に対象にできないということではないが、単純に厚生労働省令で定められている要件に該当させるのは難しい。

委員より、「横手市は豪雪地帯で、障がい者の立場に立てば、日常生活

が困難な地域になる。そういう気持ちを取り、住民のために何ができるのかを考える行政であってほしい」との意見があった。

また、委員より賛成の立場で、「J-N RIKERは全世代に使えるものであると思うが、特に支援学校に通う子どもたちが、どこでも見に行けることが、当たり前前の教育、生活であり、それが日常生活というふうに見えるので、願意は妥当だと思つ」との討論があった。

起立採決の結果、起立全員により採択すべきものと決定した。



厚生常任委員会の様子

厚生常任委員 高橋和樹・青山 豊・山形健二・寿松木 孝・立身万千子・木村清貴・小野正伸・佐藤 清春



菅原 亀代嗣 議員



Q 小中学校のエアコン設置は A 普通教室への設置は考えていない

問 全小中学校の普通教室にエアコンを設置したら、どのくらい工事費がかかるのか。

答 普通教室全330室で約13億円、その他維持費として毎年約1億円かかる見込みである。

問 合併特例債など有利な財源を活用し、小中学校の普通教室にエアコンを整備してはどうか。

答 共有スペースなどへのエアコン設置を進めており、普通教室への設置は考えていない。

問 小中学校の長寿命化計画を策定し、その中で目標年次を定めたらどうか。

答 熱中症は、屋外の諸活動での発症が圧倒的に多く、その対策など総合的な対応が必要と考える。

問 十文字駅のバリアフリー化について。

答 JRでは、跨線橋の勾配を緩



くし、踊り場を設置するなど改良工事を進めている。駅東西口の整備を含め、関係機関との調整を図り、駅機能の向上を検討する。

●地域のお祭りへの助成金は
問 浅舞八幡神社祭典の山車の人形リース料に対する助成金制度はあるのか。

答 昨年度「町内会等活動補助金」を新設。各地域の祭りや伝統文化継承の事業に利用されている。



菅原 正志 議員



Q 市が目指す地域づくりとは何か A 自主運営組織で安心して暮らせる地域に

問 市が目指す地域づくりとは。

答 地域ごとに自主運営組織が、住民の将来にわたる安心な暮らしを持続できるようにすること。

問 目標に向けての現状はどうか。

答 交流センター化に向けて準備委員会を立ち上げ、協議を進めているところもある。人口が多く、エリアが広範囲である地域では、まだ時間を要する状況である。

問 課題解決に向けての取り組みの現状はどうか。

答 特に第2層生活支援協議体との連携は不可欠である。センター長の公募、事業の出前型についても検討する。

●市と市民団体との関わりについて
問 市が市民団体の事務作業を担っていることは、市民サービスにも職員の負担にもなっていると思うが、その点をどう考えているか。

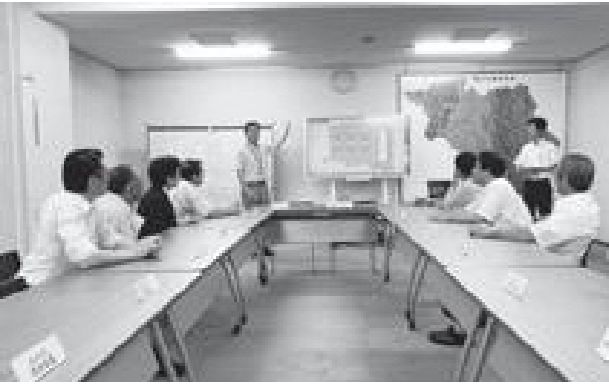
答 事務作業を担っている実態が相当数ある。しかし、団体ごとに事情が異なるため、実情や課題を整理しながら団体と協議を進める。



司書による読み聞かせを行う平鹿図書館

●図書館司書の任用と育成は
問 良い図書館には、良い司書がいると言われている。知識と経験を積み重ねた非常勤司書の雇用についてはどう考えているか。

答 新たな制度の中で、雇用年限を検討する。知識と経験を大いに活用し、職員全体のスキルアップを目指しているところである。



北庁舎に常設された災害対策室を視察

総務文教常任委員会

迅速な対応が可能に
災害対策室を常設

横手市議会ホームページ総務文教常任委員会のページがご覧いただけます。



委員より、「同趣旨の陳情が平成29年12月定例会に提出された。当時は、まだ情報もなく、何も分からない状態で採択することはできないというところから、不採択とした経緯がある。状況としては、前回、不採択とした時と変化がないのではないかと。現段階で採択、不採択を決めるのはなかなか難しいため、継続審査とすべきだと考える」との意見があった。

委員より、「同趣旨の陳情が平成29年12月定例会に提出された。当時は、まだ情報もなく、何も分からない状態で採択することはできないというところから、不採択とした経緯がある。状況としては、前回、不採択とした時と変化がないのではないかと。現段階で採択、不採択を決めるのはなかなか難しいため、継続審査とすべきだと考える」との意見があった。

委員より、「同趣旨の陳情が平成29年12月定例会に提出された。当時は、まだ情報もなく、何も分からない状態で採択することはできないというところから、不採択とした経緯がある。状況としては、前回、不採択とした時と変化がないのではないかと。現段階で採択、不採択を決めるのはなかなか難しいため、継続審査とすべきだと考える」との意見があった。

総務文教常任委員 菅原恵悦・加藤勝義・大日向香輝・高橋聖悟・塩田 勉・佐々木喜一・遠藤忠裕・土田百合子

産業建設常任委員会

横手市特産品生産施設
(狙半内地区)を解体へ

横手市議会ホームページ産業建設常任委員会のページがご覧いただけます。



雪害により倒壊した特産品生産施設

しらとり議員がお答えします！
横手市特産品生産振興センターとは？
新たな特産品の研究開発及び生産振興を目的に、増田地域に設置された①特産品開発施設、②特産品生産施設、③穀類乾燥貯蔵施設の総称です。このうち、①と②の施設では、ナマズ等の養殖を天下森振興公社に委託して行ってきましたが需要が激減、その後チョウザメの試験養殖を行うも期待された成果は得られず、平成30年度から事業を中止していました。このため、両施設を廃止し、大雪で倒壊した特産品生産施設について、今回の補正予算により解体しようとするものです。



山内地場産品直売施設「山菜恵ちゃん」

◆横手市特産品生産振興センター設置条例の一部を改正する条例
問 特産品生産施設の解体スケジュールはどうなっているか。
答 議決後、直ちに発注し、工期を1月末までと考えているが、できれば降雪期前につけたい。
問 今回の条例改正で、穀類乾燥貯蔵施設ひとつになるが、この施設の運用状況はどうなっているか。
答 そばのみの乾燥貯蔵施設として主に天下森振興公社が使用しているが、横手市財産経営推進計画（FM計画）で譲渡の方針を示している施設であり、相手方と協議をしている。

◆令和元年度一般会計補正予算
問 公共温泉施設の民間譲渡により、運営形態が変わった「山内地場産品直売施設（山菜恵ちゃん）」の経営状況はどうか。
答 昨年、横手温泉郷株式会社に指定管理をお願いした。平成30年度の売り上げ実績は、前年度と比較し17・1パーセントの減少。今年8月時点の前年比で9・6パーセントの減少となっている。



山林管理について現地を視察

◆山林管理に関する所管事務調査
今年度から新たな森林管理制度が始まることに伴い、これまで放置されてきた森林の管理が促進されることが期待される。また、平成29年7月に発生した大雨災害では、倒木等が流入し、河川が閉塞したことで被害がさらに拡大した。そのため、適切な山林管理は、当市における災害対策としても重要であり、今後さまざまな施策を講じていく必要がある。このことから、産業建設常任委員会では、大森地域の林道を視察し、山林管理に関する調査を行った。

産業建設常任委員 菅原正志・本間利博・奥山豊和・播磨博一・鈴木勝雄・菅原亀代嗣・佐藤誠洋・佐藤忠久

ものづくりの取り組み

7月10日(水)新潟県三条市

県のほぼ中央、新潟市と長岡市の間に位置し、430 kmに9万7000人が暮らしている。

「金物のまち三条」として有名で、金属加工業をベースにした地場産業が根付いている。新幹線や高速道路のアクセスが抜群である。

ポイント

- 三条ものづくり学校
閉校した小学校をリノベーションし、民間のノウハウを生かして管理運営されている施設での、ハード面・ソフト面の取り組み。
■ものづくりと定住・移住の関連
■若者の流出防止・人材確保策

視察を終えて

- ▶高付加価値で高賃金な産業創出とにぎわいの創出には、人の流れをシミュレーションすることが重要。
▶マッチングの重要性を知るコーディネーターが必要。
▶欲しい人材を育てる教育環境の整備が必要。
▶主体となる企業の存在が重要。



(菅原 恵悦)

食の循環によるまちづくり

7月9日(火)新潟県新発田市

越後平野の北部に位置し、新潟市に隣接する中核都市。コシヒカリや県内屈指のアスパラガス産地である。観光資源も豊富で、城下町の風情もある。「住みよいまち日本一 健康田園都市・しばた」を目指している。

ポイント

- 食の循環の営みを通して食と農の関連をどのように深めてきたのか。また、特徴的な取り組みは何か。
■関係部署の連携
みらい創造課が主導し、関係各課と連携して事業を実施。
■食育の実践内容とその効果、課題

視察を終えて

- ▶「育てる⇒作る⇒食べる⇒返す」という食の循環が、条例などで明確化。
▶ご飯が炊ける年長児、弁当を作れる小学6年生、郷土料理のある夕食1食分を作れる中学3年生、という分かりやすい到達目標の設定と実践は、食育の好事例。



視察を終えて

- 議会行動計画
議会基本条例チェックシートで検証し出された課題を踏まえ、改革項目を行動計画に盛り込んでいる。
■高校生との懇談会
4~5人程度の小グループに分かれ、ワールドカフェ方式を取り入れ、和やかな雰囲気高校生と意見を交わしている。
■正副議長選挙の公開
立候補表明は目標と捉えている。



写真提供：宮城県柴田町議会

グリーンツーリズムの取り組み

7月8日(月)新潟県南魚沼市

県南部の魚沼盆地に位置し、コシヒカリで知られる米産地で降雪量も多い。高速交通体系へのアクセスが良く、自然環境や地域資源を生かし、多彩な交流が図られている。また、それによる市の発展・飛躍が期待されている。

ポイント

- グリーンツーリズムの事業内容
事業実施のきっかけや、これまでの歩み、実施主体と行政の関わり方はどのようになってるか。
■事業の成果と課題
事業実施により、どんな効果もたらされたか。また今後の課題についてはどのようなものがあるか。

視察を終えて

- ▶観光協会の事務局長の熱意により、農業体験大学校の中で多彩な事業を実施。
▶友好都市の利用、口コミなどで参加者が増加。
▶外貨を稼ぐという目的が明確であり、独立採算制の事業展開。
▶ひとつの事業が複合的な構成。



(菅原 正志)

議会改革の取り組みについて②

7月23日(火)宮城県柴田町
宮城県南部に位置し仙台都市圏に含まれ、江戸時代は船岡城や城下町があった。町内には陸上自衛隊船岡駐屯地、仙台大学がある。柴田町議会は、少人数茶話会に取り組み、議会改革で東北の町村中トップの評価を受けている。

ポイント

- 議会基本条例チェックシートで検証し出された課題を踏まえ、改革項目を行動計画に盛り込んでいる。
■高校生との懇談会
4~5人程度の小グループに分かれ、ワールドカフェ方式を取り入れ、和やかな雰囲気高校生と意見を交わしている。
■正副議長選挙の公開
立候補表明は目標と捉えている。

合葬式納骨施設の運営

7月4日(木)愛媛県新居浜市

新居浜市の山側にある市立の平尾墓園に隣接した第2平尾墓園に2008年、建屋式の合葬墓を建設。隣に大規模なサッカー場があり、普段は閑静だが市民が憩う公園でもあり、明るいイメージとなっているのが印象的である。

ポイント

- 市民に意向調査を実施
2004年の豪雨災害で4カ所流失した経験から、安定的提供にあたり集約型にするか意向を調査した。
■合葬までの流れと利用料金
一定期間、納骨壇で分けし、約25年後に合葬。一体用納骨壇は、年1万500円。合葬室は1体につき1万500円(永代)。

視察を終えて

- ▶当初は、宗教団体からの抵抗があったとのことだが、宗教に関わらず受け入れ可能。
▶法要等が終わる約25年後に合葬室に遺骨を納めるので、納骨壇を増やす必要はなく、合理的な施設。
▶火気もなく、前面は防犯ガラスで防犯防災上も優れている。



(立身 万千子)

議会改革推進会議

議会改革の取り組みについて①

7月22日(月)福島県伊達市
戦国大名「伊達氏」発祥の地で、特産の干し柿「あんぼ柿」、桃等の果物や野菜は全国でも有数の産地。伊達市議会は、政策立案や政策提言をまとめ上げる体制が整っているなど、先進的な取り組みを行っている。

ポイント

- 議員定数等議会改革特別委員会
議会報告会などにおいて出された意見や課題について、政策討論会を行っている。
■積極的な政策形成サイクル
市への政策提言に結びつけるためにチャレンジしている。
■正副議長選挙の公開
立候補表明はマニフェスト。

視察を終えて

- ▶政策討論会のテーマを決め、会派ごとに意見がそろえば市への政策提言をする。
▶議会改革にチャレンジしている議員から話を聴くことができた。
▶横手市議会としてのテーマを決め、議員間討議を行うなど、政策提言をする方向に努力すべきと感じた。



※エンゼルヘルパー…妊娠中や出産後に、手伝いをしてくれる人がいない方に対し、家事や育児のお手伝いをする制度。

※ワールドカフェ方式…カフェで話し合いするように少人数でリラックスした雰囲気話し合い、途中何度か席を変えて話し合いを行うことで、参加者同士が意見や知識を共有する話し合いの手法。

広報広聴委員会広報分科会研修報告

広報が変われば議会は変わる!

議会のシティズンシップ教育と広報～対話・参加・協働のまちづくり～

7月18日 東京都豊島区

日本広報協会広報アドバイザーが講師を務める議員・職員向けセミナーに参加。第一部では、18歳選挙権導入以降、主権者教育に対し議会としてどのように関わっていくべきか、議会広報の視点から先進的な取り組みを学んだ。第二部では、改めて広報紙づくりの基礎を学び、参加した議会の広報紙を例にしながら、評価のポイントや改善点の提案を受けた。



ポイント

- シティズンシップ教育の位置づけ
NPOや民間団体が支援するケースが増えている。議会主導で、行政や教育委員会を巻き込んでいく。
- 協働のあり方と事例
・小学生を対象にした、親子で議場見学。議場を自習室に開放。
・高校生が地域住民の意見を基にした請願書を議会に提出。委員会にて提案理由を説明し採択された。
・高校の美術部や写真部と協働し、表紙のイラストやロゴを作成。
- 企画編集のプロセス
切り口を決めた上で、ストーリーに沿った構成と展開。
- 表記の基本とテクニック
文章の短文化。読者への語り掛けを意識した興味を引くタイトル。

◆視察を終えて

私たちは議会広報に取り組む上で、市民と議会双方向の分かりやすい紙面づくりを心掛けてきた。講師の先生から、「全国的にみても分かりやすい議会だよりの一つとっていいと思う」という評価を頂いたことには、私たちがこれまで意識して取り組んできた方向性に自信を持つことができた。

情報発信の前提には市民の声がある。今後も広聴と広報が連携を図りながら、情報の取捨選択と、ポイントを絞った解説、定例会を俯瞰した編集を心掛けていきたい。(奥山 豊和)

議員と語ろう

横手版DMO × 市議会議員

8月6日(火)、観光地域づくりの舵取り役である(一社)横手市観光推進機構(横手版DMO)のメンバーとの懇談会を開催。よりよい観光地域づくりに向けた意見交換を行いました。

- ◆目指す将来の姿・コンセプトを市の担当課と共有して事業を実施していきたい!
- ◆横手のファンを増やして、もっと全国からたくさんの人に横手に来てほしい!
- ◆いろんな事業がありすぎてマンパワーが足りない!
- ◆当機構で行うマーケティング調査の結果を、市の発展にもっと生かしてほしい!



参加者からの声

(一社)横手市観光推進機構 佐々木 博巳さん

活動内容を説明させて頂く、いい機会になりました。また、懇談会も終始話しやすい雰囲気、いろいろなアドバイス等もいただくことができ、懇談会を開催してよかったです。

「まちなみ保存会」の取り組みについて

7月25日(木) 滋賀県東近江市

五箇 荘 金堂は1998年に重伝建に選定。「特定非営利活動法人金堂まちなみ保存会」は、2007年にNPO法人格を取得し、主に伝建事業に関わる相談業務について市からの委託を受けている。伝統的建造物の数は約300棟。

ポイント

- 伝統的建造物の修理・修景事業 住民団体の関わり方はどうか。
- まちなみ保存会と地域住民 どのような関係性をもって運営されているか。
- 自主防災体制・防火対策 消火器を各戸に配布。防災マップの配布。女性消防隊の編成。月1回の訓練と器具点検を実施。

視察を終えて

- ▶NPO法人格として10年を経過し、規模の大きさや高齢化による後継者問題がでてきている。
- ▶修景相談の際、行政と住民との仲介役としての役割を担っている。
- ▶観光に特化した修景だけではなく、当市の取り組みと対比することができた。



現場映像を活用した危機管理センターについて

7月25日(木) 滋賀県東近江市

滋賀県の南東部に位置し東西に細長く、市域の中央に愛知川が、南西部に日野川が流れ、流域には平地や丘陵地が広がる。緑豊かな田園地帯を形成し豊かな自然と交通の要衝として栄え、多くの企業家と数多くの文化が育まれてきた町である。

ポイント

- 危機管理センター 市庁舎新館建設に合わせて、2014年度に新設。
- 最新の施設整備 各種システムとの連携やマルチディスプレイの設置など最新の施設整備。
- 8画面システムの活用 頻繁に氾濫する河川にカメラを設置し、現場映像を配信。

視察を終えて

- ▶精度の高いオペレーション映像を見ながら双方での音声通話ができ、瞬時に災害現場と本部の情報共有ができるなどの点は素晴らしい。
- ▶災害現場を撮影する担当者の安全性確保が大きな課題と感じた。
- ▶職員が24時間対応できる体制が確立されている。



VR安土城高精度型システムについて

7月24日(水) 滋賀県近江八幡市

滋賀県のほぼ中央に位置し、西の湖(琵琶湖で一番大きい内湖)は、ヨシの群生地である水郷地帯で琵琶湖八景の一つに数えられている。

また、陸上と湖上の交通の要衝という地の利を得て、多くの城が築かれ、また近江商人の基礎を築いたところである。

ポイント

- VR安土城プロジェクト 市の観光振興に役立てようと2010年の合併を機にスタートし、2013年にタブレットやスマートフォンで見られるようにした。
- VR安土城シアター完成 専用コントローラーを使って映像空間内を自由に動き回れるマニュアルモードを導入。

視察を終えて

- ▶城跡だけでは当時のことも分からず、VR導入前は知名度とは裏腹に非常に少ない観光客だった。
- ▶資料館や考古博物館は市街地から離れた場所で、不便さが感じられることもありVRを導入した。
- ▶横手市でVRを導入するためには、当時の詳細な資料が必要になる。



(菅原 恵悦)

おしらせ

第8回 議会報告会・意見交換会

地域から出されたテーマについて、議員と地域のみなさまが小グループでじっくりと語り合うことができる意見交換会を開催いたします。

たくさんの方のご参加をお待ちしています!

期日	時間	場所
10月15日(火)	19:00~	増田地区多目的研修センター
	18:00~	大森コミュニティセンター
10月16日(水)	18:00~	山内庁舎
	18:30~	福地公民館
10月17日(木)	18:30~	かまくら館
	19:00~	サンサン横手
10月18日(金)	19:00~	大雄庁舎
	18:30~	西成瀬地区交流センター

期日	時間	場所
10月21日(月)	18:30~	雄物川庁舎
	18:30~	前田公民館
10月24日(木)	18:00~	Y ² ぶらざ
	18:00~	あさくら館
10月25日(金)	18:30~	山内南郷コミュニティセンター
	18:30~	松川コミュニティセンター
	18:30~	館合地区交流センター



7月

- 2日 FM番組収録
- 3日 厚生常任委員会行政視察【P16】
(～5日、愛媛県新居浜市、広島県尾道市)
千葉県習志野市議会行政視察受け入れ
- 8日 産業建設常任委員会行政視察【P17】
(～10日、新潟県南魚沼市・新発田市・三条市)
令和元年度第1回秋田県市議会議長定例会
県内各市の市議会議長が、横手市に一同に会し、課題などについて意見交換をしました。
- 11日 山形県河北町議会行政視察受け入れ
- 12日 消防議員連盟研修会
- 16日 7月臨時議会、全員協議会(行政課題説明会)
会派代表者会議、総務文教常任委員会
- 17日 広報広聴委員会広報分科会研修【P19】
(～18日、東京都)
兵庫県洲本市議会行政視察受け入れ
- 18日 FM番組収録
- 22日 議会改革推進会議行政視察【P16・17】
(～23日、福島県伊達市・宮城県柴田町)
熊本県水俣市議会行政視察受け入れ
- 24日 総務文教常任委員会行政視察【P18】
(～26日、滋賀県東近江市、近江八幡市)
兵庫県三木市議会行政視察受け入れ
- 29日 茨城県常陸太田市議会行政視察受け入れ
秋田県市議会議長会実行運動(～30日)
- 30日 茨城県常陸大宮市議会行政視察受け入れ
- 31日 産業建設常任委員会協議会
総務文教常任委員会協議会



8月

- 1日 佐賀県議会行政視察受け入れ
- 3日 友好都市厚木市議会表敬訪問(～4日)
- 5日 FM番組収録
- 6日 DMOと市議会議会との懇談会【P19】
産業建設常任委員会協議会、FM番組収録
- 7日 子ども教室議場見学、秋田県議会行政視察受け入れ
- 8日 秋田県後期高齢者医療広域連合議会臨時会
鳥取県議会行政視察受け入れ
- 19日 宮城県岩沼市議会行政視察受け入れ
- 20日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会
議会改革推進会議、厚生常任委員会協議会
- 21日 産業建設常任委員会協議会、千葉県野田市議会行政視察受け入れ、宮城県気仙沼市議会行政視察受け入れ、FM番組収録
- 22日 広報広聴委員会広報分科会
- 22日 横手市・西和賀町・北上市議会議員研修交流会
3議会で行われる研修会に参加。お互いの課題や目標などについて意見交換しました。
- 23日 友好都市那珂市議会表敬訪問(～24日)
なかひまわりフェスティバルを訪問。那珂市と横手市は友好都市締結15周年を迎えました。
- 26日 市議会9月定例議会【P2～18】(～9月20日)
- 29日 広報広聴委員会広報分科会



厚木市議会のみなさんと意見交換を行ったあと、厚木市議会の議場を見学しました。



9月

- 3日 議会運営委員会
- 4日 広報広聴委員会広聴分科会
- 5日 議会改革推進会議、FM番組収録
- 17日 正副委員長会議、議会運営委員会
広報広聴委員会広報分科会
- 21日 FM番組収録
- 26日 広報広聴委員会広報分科会
- 30日 広報広聴委員会広報分科会



Shining ～最高を求め続けて～

十文字中学校生徒会企画部

私たち十文字中学校は、令和という新時代の始まりとともに、開校10年の節目を迎えました。これまでの伝統を受け継ぎ、そして私たちの力でさらに輝きを増した十中を作り上げていきたいという思いを含め、今年度「Shining ～最高を求め続けて～」という生徒会テーマを掲げ活動しています。

本校では、生徒会で制定した「十文字中学校あい宣言」のもと、校歌の一節にもあるように全校生徒が日々「かたりあい、たかめあい」ながら学校生活を送っています。また今年度は全校縦割り活動にも力を入れています。体育祭や合唱コンクールの練習で、学年を越え、一緒に活動することで、十中生の絆がさらに深まっていると感じています。

10年目の節目をしっかりと「見つめて」、また、私たちが新たに作り上げる伝統や校風を「見据えて」、そして常に上を目指して最高のものを「求め続けて」、これからも全校生徒一丸となって前に進み続けたいと思います。



十文字中学校生徒会企画部の皆さん

編集後記

稲刈りも終わり、秋も深まってきました。ご愛読いただいている議会だよりですが、現委員での編集は本号が最後。これまで、多くの方に目を通してもらえるよう、紙面づくりを工夫してきました。これからも議会の情報をしっかり届けられるよう、次の委員にバトンを渡したいと思います。(播磨 博一)

◆広報広聴委員会広報分科会◆



- 分科会長 奥山 豊和
- 副分科会長 加藤 勝義
- 委員 播磨 博一
- 委員 高橋 聖悟
- 委員 土田百合子
- 委員 山形 健二

